

ARTS for HOPE

宮城チーム活動報告書 2015年1月24日



仙台・連坊小路児童館「凧づくり」

平日とは違い、休日モードの児童館のなかは、なんとなくゆったりとした空気感です。校庭では、父と息子ふたりがキャッチボール。体育館では大人のみなさんがバドミントンを楽しんでいらっしやいます。

遊戯室では、凧用の白い不織布に、子どもたちが思い思いの絵を描き出します。

「妖怪ウォッチ」は「アナと雪の女王」と並んで、2014年度のスーパースター。そのキャラクターを描いている子どものなかからは、主題歌を口ずさむ声が聞こえてきます。

海のなかをクレヨンで描く男の子。となりで製作中のもうひとりの男子は、モノトーンがしびいロケットを描いています。

この班は、女の子もなんだか理科系。なんとかという彗星の話で、盛り上がっています。なんと、その彗星が今度地球に近づくのは8000年後なのだとか。

できあった子どもたちは、もう、校庭で凧を飛ばしたくてしかたありません。

だいたいの子が仕上がったところで、先生から「校庭で飛ばしてもいいよ」という許可が出て、みんなダッシュ！

「風にのったら、ひもをもっと出して！」との先生のアドバイスの声が響くなか、出来上がった凧はグングン空へ舞います。

友だちの凧とからみあって、ひもが切れた子。

木の上にひっかかって、取るのに一苦労した子。

大人だったら、もうダウンしちゃうだろうなあって思うくらい、何周も何周も凧を持って駆け回る子どもたちの元気さは、本当に幸せな気分になります。

